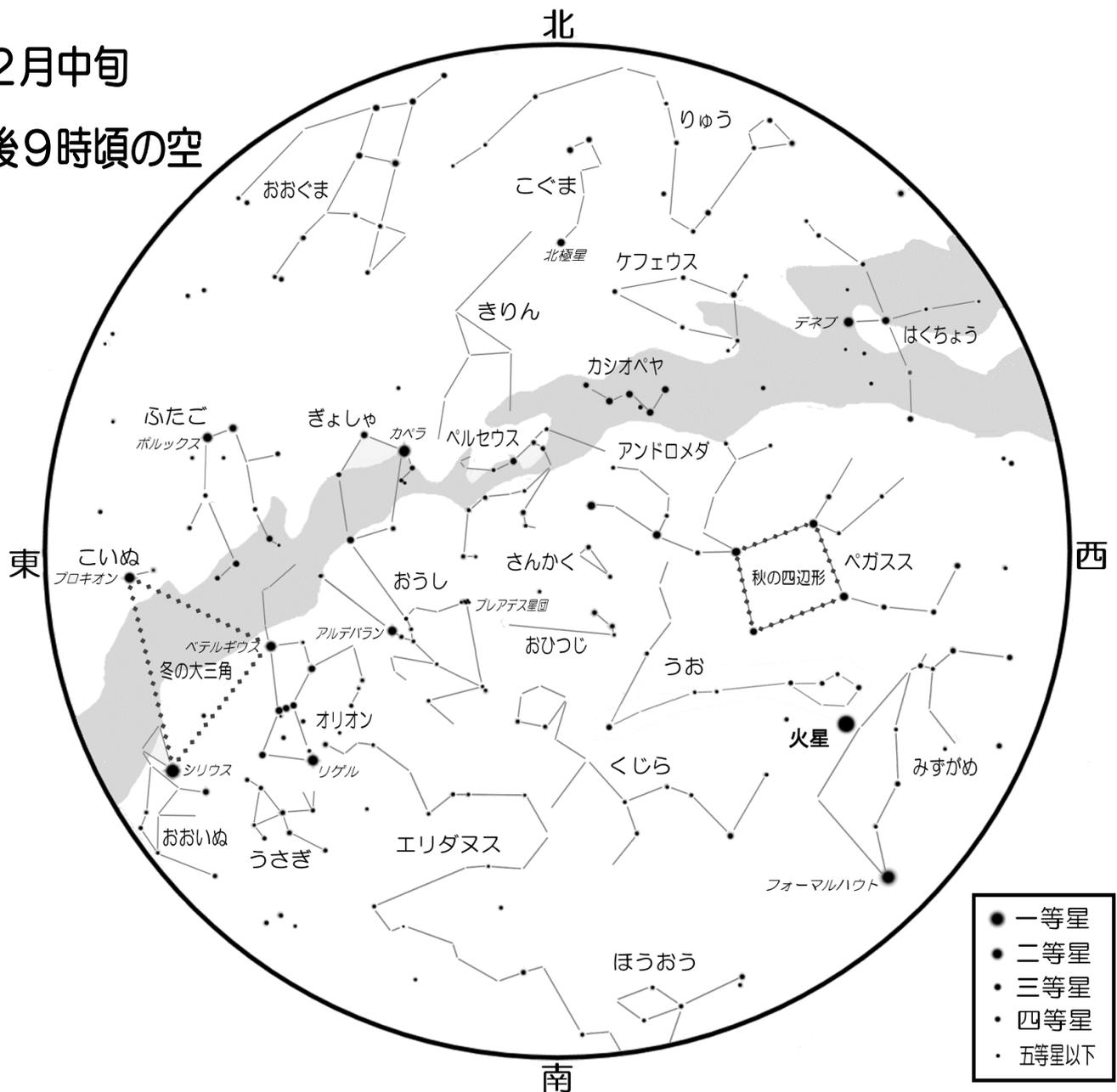


阿南市科学センター 12月の星空案内

12月中旬

午後9時頃の空



12月に入ると、夏から初秋にかけて夜空を賑やかにしていた惑星たちのうち、やや暗くなった火星だけが残された格好となりました。しかし、東の空に注目すると、惑星たちの輝きに勝るとも劣らない冬の星座が見えてきています。良く「冬の星はきれいに見える。」と言われますが、冬の星座には一等星が多いことに加え、気温の低さが大きな原因となっています。星の光は非常にデリケートで、空気中に含まれる水蒸気の量が多くなると光が弱められ、そのぶん見えにくくなるのですが、冬は気温が低いこともあって、空気中の水蒸気の量が少なくなります。その結果、星の輝きが鮮やかに感じられるのです。

また、徳島県南地域は、その地形の関係から、寒くなればなるほど晴天率が高くなるため、美しい星が見られる機会も多くなります。寒い時期ではありますが、良く澄んだ冬空のもと、星たちの輝きを楽しんでみましょう。

天体観望会のご予約、お問い合わせは

阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川洲 8-1 電話 0884-42-1600

12月の月と惑星

月の満ち欠け

月の形	●新月	◐上弦の月	○満月	◑下弦の月
見える日	7日	15日	23日	29日

惑星

水星 	金星 	火星 	木星 	土星 
日の出前、東の低空に見える (0.9 → -0.4 等)	明け方の東の空に見える (-4.6 → -4.5 等)	夕方、南西の空に見える (0.0 → 0.3 等級)	上旬は太陽に近く観察は難しい。中旬ごろから、日の出前の東の低空に見える。 (-1.7 → -1.8 等級)	上旬は夕方西の低空に見えるが、その後は太陽に近く観察は難しい (0.5 等級)

天文館夜間天体観望会 12月の見もの

○おうし座の惑星状星雲 NGC1514

おうし座の星雲と言えば、一番に「カニ星雲」を思い浮かべますが、それ以外にも、明るくて比較的見やすい惑星状星雲があります。それが、このNGC1514です。場所はおうし座とペルセウス座の間に位置しますが、目印になる明るい星が近くにないので、自動導入ができる望遠鏡でないと苦労するかもしれません。また、見やすいと言っても、大きさはカニ星雲の1/3くらいしかありませんので、低倍率よりも少し高め倍率で見てみましょう。一般に惑星状星雲は、小さくて暗くても単位面積あたりの輝度が高いことから、小口径の望遠鏡でも100倍以上の高い倍率での観察が適しています。それくらいの倍率でご覧になると、中心の星をガスが取り巻くような姿を確認することができるでしょう。



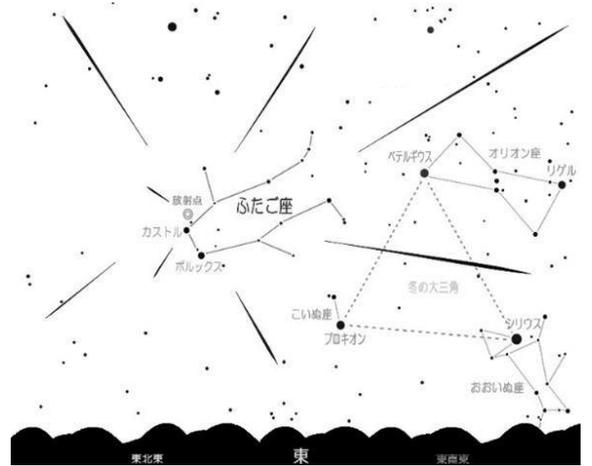
今月の天文現象

12月14日(木)ふたご座流星群

毎年、安定して流れ星を発生させる「ふたご座流星群」が14日にピークを迎えます。この流星群は1月のりゅう座流星群、8月のペルセウス座流星群と並んで、3大流星群のひとつとして有名で、夜空の暗いところでは、1時間あたり50個程度、夜空の明るい街中でも1時間あたり数個の流れ星を見ることができます。

今年のピークの時間は14日の午後9時と予想されていますが、この時間はまだ半分近く欠けた月が西の空にあり、月明かりの影響で暗い流星は見づらいかもかもしれません。しかし、午後11時頃になると、観察に邪魔な月も西の地平線に沈みますので、深夜から明け方までは、最高の条件で観察することができます。

なお、観察する方向ですが、流れ星はいつ、どこに流れるかわかりませんので、一定方向だけを見るのではなく、地面に寝転がるなどしてできるだけ空の広い範囲を見るようにして下さい。そうすることにより、より多くの流れ星が見られるようになります。また、この時期は大変寒い時期でもあります。特にまだ流れ星を見たことがない人は、絶好のチャンスとなりますので、晴れていたら30分程度でかまいませんから、夜空を見上げてみましょう。



12月14日 午後10時ころの空

天体観望会のご予約、お問い合わせは

阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川洲 8-1 電話 0884-42-1600